

制作番組のご案内 (共同制作:株式会社オペテージ)

村瀬先生の『ぶらり関西歴史旅』

江戸時代の地図を手に、大阪の昔と今を比べて学ぶ街歩き番組『ぶらり関西歴史旅』。大阪・なんば編では、通称「ミナミ」と難波・心齋橋界隈を訪ねます。「なにわの地理博士」と大手予備校・東進ハイスクールの人気講師・村瀬哲史さんの案内で、フリーアナウンサーの市川いずみさんと一緒に、この地の歴史を振り返ります。



水掛不動(法善寺横丁)にて

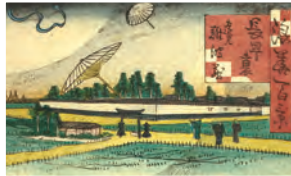


大阪・なんば編



「なんばパークス」になる前は?…古地図A B

人気の商業施設「なんばパークス」のあたりには、江戸時代、幕府が管理する米蔵「難波御蔵」があり、災害時の救援米が貯蔵されていました。古地図には、道頓堀川から開削された運河(米の輸送路)が記されています。1950~98年までは、プロ野球・南海ホークス(現・福岡ソフトバンクホークス)の本拠地「大阪球場」がありました。



長町裏遠見難波蔵(浪花百景/部分)
(大阪市立図書館デジタルアーカイブより)



大阪球場(手前は高島屋)
(提供:南海電気鉄道株式会社)



なんばパークス



1881年 新選大阪市中細見全図(大阪市立図書館デジタルアーカイブより/部分)

法善寺横丁の看板の文字が変?…古地図C

江戸時代の地図にも載っている「法善寺」(1637年創建)。法善寺横丁は、参拝客の露店から発展したもので、織田作之助の小説『夫婦善哉』にも登場して有名になりました。入口の看板は昭和の喜劇王・藤山寛美の筆によるもので、よく見ると「善」の字の横棒が一本足りません。寛美いわく「俺はそれほど善人やないから、あえて一本引いた」とのことです。



法善寺横丁の入口

木→鉄→石 な〜んだ?…古地図D

心齋橋は1622年頃、商人の岡田心齋が中心となって長堀川(現在の長堀通)に架けられ、その功績から「心齋橋」と名付けられました。江戸時代は木橋で、明治初期に鉄橋になり、後期には石橋に変貌。現在、長堀川は埋め立てられて橋は横断歩道となり、往時の姿を伝えるモニュメントがあります。心齋橋筋界隈は昔も今も流行の発信地。大正から昭和にかけては、東京で流行した「銀ブラ」をまねて、心齋橋筋をぶらり歩きする「心ブラ」という言葉が生まれました。



心齋橋のモニュメント



旧心齋橋の現在の姿



心齋橋筋商店街



昭和4(1929)年の心齋橋筋
(大阪市立図書館デジタルアーカイブより)

川の交差点にあった「四ツ橋」…古地図E

心齋橋の近くにある四ツ橋は、1622年頃から長堀川と西横堀川が交差した地点に架けられていた四つの橋の総称でした。



四ツ橋



昭和初期の四ツ橋
(大阪市立図書館デジタルアーカイブより)

番組で
チェック!

- 法善寺の水掛不動は、どうして苔だらけ?
- きつねうどんで有名な「道頓堀 今井」の前身は?
- 道頓堀川に架かる「戎橋」の名前の由来は?

村瀬哲史 (むらせ あきふみ)

東進ハイスクール 東進衛生予備校 地理講師

「楽しく学ぶ地理」をモットーとした授業で学生に大好評。

一度観ると忘れられない!そんなキャラクターでテレビ・ラジオでも活躍中!

右記のQRコードを読み込むか、当協会ホームページにアクセスしてご覧ください。(https://www.osaka21.or.jp/)

